

長田下地域 振興会だより 第4号

2007年(平成19年)6月11日発行

活動フラッシュ



総会：「協働」の地域づくりを強調する川崎会長（右端）と聴き入る参加者（左）。来賓は、児玉市長。



みんなで造ろう「縄文の池」。竹の切り出し（左）と整地・遊歩道づくり。（右） 場所はひとは館の隣

活動の状況（4月～5月）

- | | | | | |
|----|----------------------|--------------------|--------|-----------|
| 4月 | 1日(日) | 総会 | 24日(火) | ふれあい部会 |
| | 25日(水) | 「縄文の池」準備会 | 29日(日) | 役員会 |
| 5月 | 9日(火) | マツバギク除草、植栽予定地除草剤散布 | | |
| | 15日(火)、18日(金)～23日(水) | 「縄文の池」関係諸作業 | | |
| | 26日(土) | 広報委員会 | 29日(火) | ふれあいの集い 等 |

手記

去る3月まで2年間、長田下地域自治振興会の副会長として活躍された、7区下の
谷林文男さんに手記を書いていただきました。

「小さな一芸が地域との結びつきに」

谷 林 文 男

長いシベリアの抑留から解放されて帰国した父が、栄養失調も癒え、わずかな田畑の耕作と炭焼きを始めて、数か月経ったころ、炭俵を背負っての帰り道。

「体の弱いお前にも、1つはいいところがあるろう。どんな人間でも1つ以上、必ず長所を持っているものだ。どんなことでもよい。お前も努力して、だれにも負けない一芸に秀でよ。……」と、こんなことを言いました。病弱なわが子を心配しての励ましかったのかも知れませんが。(今は遺言になりましたが。)

それからは、自分に何ができるか、何が一芸になるか。ずっと考えました。そんな時、いつも心に浮かぶのは、幼少のころ祖父が膝にだっこして唄ってくれた長田の民謡でした。昔からこの土地に歌い継がれていたのであろう「地つき唄」や「盆踊り唄」、そして「浪曲(浪花節)」などでした。小さいときから、親について行く山道で、またお風呂の中で、いつも鼻歌が出てくるのは、あの祖父のおだやかな「日本の民謡」のまねでした。

父が言っていた「一芸に秀でよ。人には誰にもまねのできぬ長所がある」という言葉は、祖父の教えてくれた「日本民謡」かもしれないと思い始めました。高校生のころからは、我流ですが本気で日本民謡を唄うようになりました。

師匠を求めなかったのが、本物ではありませんが、一か八かNHKのお昼の「のど自慢」に挑戦して実力をためそうと思いつきました。応募ハガキで申し込み、予選を通過し、全くの偶然ですが、チャンピオンになってしまいました。

そのころ長田下地域では「明神クラブ」の皆さんが、伝統の一つ「盆踊り」を継承しておられ、私にも「口説き(音頭取り)」の誘いを受けました。すでに、30回くらい盆踊りの櫓(やぐら)の上に上がらせてもらっています。

ささやかな一芸が、地域の皆さまとつながっていることに感謝しているこの頃です。



振興会諸行事の司会でもおなじみの谷林さん

特集 なるほど・ザ・おかげんさん

「おかげんさんいうたら何?」「『お管絃祭』とも書くけえ、宮島の管絃祭の流れを受けてしとるちょうちん行列じゃろう。」「どうしてこんな遠いところで海の祭りをしとるん?」「それは・・・??」

元祖は清盛

厳島神社の管絃祭は、平清盛が、厳島大神(三柱の姫神)を慰めるために始めた神事です。清盛は、姫神の御神体を乗せた管絃船(御座船=ござぶね)に、高張提灯、飾提灯などを取りつけ、対岸の地御前神社から厳島神社まで(注)現在は逆ルート)、管絃(和楽合奏)を奏しながら往復させました。現在も毎年、大潮で本殿に接岸でき、しかも満月に近い旧暦の6月17日に行われています。

「海」から「山」へ

海の管絃祭が、なぜ上陸して、こんな山間部の長田まで来たのでしょうか。向原町誌(平成4年発刊)には、清盛の時代前後に、長田郷は、厳島神社に寄進され、同神社の社領になったと書かれています。室町末期には、川之内に厳島の姫を祭る神社もできました。これらに伴い、いつの時代からかわかりませんが、管絃祭が「おかげんさん」として行われるようになったようです。長田に点在していた社(やしろ)や祠(ほこら)を発着点とし、御座船の飾りを模した提灯などをつらねて、笛、太鼓に合わせて歩く形式となりました。同じ長田でも、地域によっては、飾りたてた川舟を流す形式のものもありました。

伝統行事の継承を

振興会で現在やっているのは、4区で復活させ長年実施していたものを受け継いでいます。昔の言い伝えによると、厳島神社から三篠川経由で出雲に向かう神様を、明神さん(水野明神社)で休息してもらうために、船着場へ出迎える、という趣旨で始まったようです。現在では、神事というよりも祭りです。

復活させたメンバーによると、三角形の高い竿灯(かんとう)は「山」を、子どもたちが運ぶ提灯は「道」をイメージして製作したそうです。

3年前に振興会で竿灯の数を増やし、巨大な山形となりました。昨年デビューした「大提灯」は、行列を導く巨大かがり火とでもいえましょうか。

この由緒ある伝統行事を誇りを持って継承していこうではありませんか。今年も、幻想的で壮大な平成の長田絵巻をみんなでつくりあげましょう。

開催日は7月21日(土)です。ご協力よろしく願いいたします。また、誘いあわせて、家族・近所ぐるみでご参加ください。

振興会掲示板

協力ありがとうございます

資源ゴミリサイクル活動の収入（総会で報告以降のもの）

3月 3,800円 4月 3,852円

いつもご協力ありがとうございます。今後の回収日は、6月25日、7月30日、8月27日、...となっています。よろしくお願いいたします。
毎月最終月曜日をお忘れなく。

行事等の予定です

7月1日（日） 河川美化活動

7月15日（日）16日（月） 「縄文の池」遊歩道整備作業（砕石・真砂土）

7月21日（土） おかげんさん

8月14日（火） 盆踊り・・・明神クラブ主催、振興会後援

9月1日（土） ひとは祭り・・・振興会後援

コーナー ほのぼの

今回の「ほのぼの」は、「花のじゅうたん」への第一歩、可憐に咲いたマツバギクです。



ひとは作業所向い側の三篠川沿いの土手に植えてあります。

編集後記

誕生したばかりの広報委員会が初めて編集した「振興会だより第4号」です。不慣れな私たちですが、企画調整部と協力して、みなさまのニーズに応えるよりよい紙面づくりをめざします。よろしくお願いいたします。

ご感想、ご意見、明るい話題等お寄せください。

広報委員一同

発行 長田下地域自治振興会

担当：広報委員会、企画調整部